湯浅まちなか・にぎわい復興プロジェクト　～伝統的な町並みを活かしたまちづくり～

現状と課題

◆平成18年：重要伝統的建造物群の指定
◆湯浅町まちなかエリアには、一定の観光客入り込み（H21；約3万人）があるものの、まちなかで消費行動をさせるしかけが整っていないため、経済効果が少ない
◆来春、有田までの高速道路が4車線化され京阪神からの渋滞がほぼ解消される

重要伝統的建造物群保全を進めつつ
■「歩く　（歴史を聞き、土産を買う）」
■「体験する　（湯浅特産物をつくる）」
■「食べる　（湯浅グルメを味わう）」
しくみを湯浅まちなかで構築し、伝統的な町並みを活かした観光産業の振興を図る

【事業主体】
湯浅町
湯浅元気プロジェクト会議
（町、湯浅町商工会、湯浅町観光協会
特産物振興協議会、湯浅ボランタリーガイド協会、湯浅町まちおこし連絡協議会
和歌山大学（オブザーバー））

【活用事業】
わがまち元気プロジェクト支援事業
重要伝統的建造物群保存地区補助事業
ふるさと雇用対策事業
湯浅町事業

【全体事業費】　159,200千円
湯浅町　85,200千円

取組の5本柱（H22～H24）

〈1、観光客受け入れの基盤整備〉　【湯浅町】
26，100千円

①インフォメーションセンター（案内所）の設置・運営
・まちあるきのためのワンストップサービス
・案内ガイドと大型バスの予約手続き
・レンタサイクルの貸し出し

②案内ガイド（語り部）の充実・強化
・ガイドレベルの向上と事前予約システムの導入
・装備の充実

③ガイドマップ（ウオーキングマップ）製作
・飲食店、土産物店、トイレ、お店、駐車場、休憩所などのまちあるきのために必要な情報を掲載
・歩きながらでも見やすい体裁を採用

④トイレの分散配置
・まちなかに徒歩5分ごとにトイレを設置
・バス乗降場所周辺に団体客対応可能なトイレ整備

⑤まちなか休憩所の分散配置と地元物産販売の充実
・まちなかに徒歩5分ごとに休憩所を設置
・休憩所を活用し、果物、海産物等地元物産を販売

〈2、湯浅体験メニュー開発〉　【元気プロ会議】
800千円

湯浅の特産品である醤油・金山寺味噌づくりなどを実際に体験できる工房を開設

〈3、湯浅グルメの開発と提供〉　【元気プロ会議】
2，400千円

①湯浅の醤油・金山寺味噌・魚介類・果樹を使用した料理を、「湯浅グルメ」として認定（湯浅グルメ基準の設定）
②「湯浅グルメ」を提供するお店を紹介する「湯浅グルメマップ」を制作し、観光客が安心して地元の産品を食べられるしくみを構築
※団体客が分散して昼食を食べることができるシステムを作り、大規模飲食店がない湯浅でもツアー客を誘致する

〈4、湯浅まちなかへの誘客取組〉　【元気プロ会議】
900千円

①インフォメーションセンターを核とした新聞、雑誌、旅行雑誌、情報誌等各種メディアへの継続的な情報発信
②旅行エージェントへの営業活動
③モニターツアーの開催

〈5、歴史的まちなみの修景と保存〉　【湯浅町】
129，000千円

①歴史的建造物の保存修理（町による町家修復の補助）
毎年、4～5軒の建物保存修理を継続して実施
②まちなみ景観整備（町による景観整備）
重伝建指定地区の周辺地域での建物保存修理を実施

目　標

伝統的な町並みを活かした個性的な観光地づくりをすすめ、観光産業の創出を実現する

観光客数	3万人（H.21） →	6万人（H.25） →	10万人（H.28）
観光消費額	0．15億円（H.21） →	1．5億円（H.25） →	2．5億円（H.28）